

一 般 質 問 通 告 表

ページ

① 松 尾 徹 郎	・ ・ ・ ・	1	(9 月 5 日 予 定)
② 田 中 立 一	・ ・ ・ ・	2	(〃)
③ 和 泉 克 彦	・ ・ ・ ・	3	(〃)
④ 利 根 川 正	・ ・ ・ ・	6	(〃)
⑤ 保 坂 悟	・ ・ ・ ・	7	(〃)
⑥ 東 野 恭 行	・ ・ ・ ・	10	(9 月 8 日 予 定)
⑦ 松 田 徳 彦	・ ・ ・ ・	11	(〃)
⑧ 関 原 奈 津 美	・ ・ ・ ・	13	(〃)
⑨ 渡 辺 栄 一	・ ・ ・ ・	13	(〃)
⑩ 加 藤 康 太 郎	・ ・ ・ ・	14	(〃)
⑪ 阿 部 裕 和	・ ・ ・ ・	16	(9 月 9 日 予 定)
⑫ 宮 島 宏	・ ・ ・ ・	17	(〃)
⑬ 田 原 洋 子	・ ・ ・ ・	19	(〃)
⑭ 田 原 実	・ ・ ・ ・	22	(〃)

① 松 尾 徹 郎

1 市長公約と市政運営について

【答弁者：市長】

バブル経済崩壊後、国の財政状況により、自治体にとって右肩上がりの時代は終わりを告げたと言われております。その後、市町村合併が全国的に行われ、その間、高齢化も一層進み、社会保障費の増加、また、近年に至っては著しい少子化と、人口減少が大きな課題となっております。

糸魚川市は、高度経済成長時代よりこれまでの間、国の補助事業を有効活用することで、公共施設整備、経済活力の維持、雇用の確保など、ハード事業を中心に発展してきた経過があります。しかし、現在に至っては、厳しさが増す財政状況の中、ハード整備事業だけでは経済発展や地域振興に無理があると言わざるを得ません。

近年、科学技術の発達、産業、経済、社会が大変なスピードで変化し続けているだけに、将来を見通すことはなかなか困難ではあると思いますが、そのような中でも10年先、あるいは遠い将来を見据え、今から将来ビジョンを持つことは極めて重要であると考えます。

こうした中、各世代が求める行政サービスは様々であり、例えば、子育て世代は子育て環境や教育環境の整備、高齢者においては福祉施策の充実、また産業界においては産業振興策とそれによる経済活性化策など、市民要望は各世代、各分野、地域により多岐にわたり、行政施策に対する期待は大きいものがあります。

久保田市長の公約には、市民参加型のまちづくりを「縮充」という考え方で推進するとあり、人口減少が進む中、悲観するのではなく、社会・地域・生活の質を充実させるまちづくりを目指すとして記されておりますが、私も同感であります。

そこで以下、伺います。

- (1) 産業面においては、「第一次産業を基盤として経済を活性化する」とありますが、具体的にはどのような施策を展開したいと考えておられるのか伺います。
- (2) 「観光資源の整備やふるさと納税の活用により、特定資金源を確保する」あるいは、「第一次産業からのイノベーション、糸魚川・能生・青海、3地域の特性を活かした振興策、地域の魅力を引き出し、充実した社会を目指す」とありますが、この点について具体的に伺います。
- (3) 教育については、「子どもたちが学びやすい環境を整え、学校再編や部活動の地域展開を推進し、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築する」とあり、学校再編、地域展開への移行、多様化への対応、施設の再構築、大学専門学校等への連携、キャンパス誘致など、少子高齢化への対応、スポーツ・文化活動の維持などについても触れられており、詳細について考えを伺います。

質 問 事 項

- (4) 公約には、「市民とともに、住みたいまち、住み続けたいまちを実現するために、未来を見据え、10年後、30年後の糸魚川市を共に創りましょう」と記されています。今後、更なる人口減少とインフラの老朽化も危惧され、また、産業構造の変化など、様々な懸念材料が考えられます。行財政改革を始め、限られた財源の中「将来を見据え、当市の課題に対し、今求められているものは何か、何を改革し、推進すべき施策は何か」、市政運営について考えを伺います。

② 田 中 立 一

1 糸魚川市の入札について

【答弁者：市長】

官製談合事件から4年、木浦地区公民館解体工事など、問題となった案件もあったが、入札監視委員会を設け、改善を図られてきたと思う。

しかし、旧東北電力ビルの解体工事入札は、5回連続不調となり、今回行われた旧宮田ビルを含めての同時解体工事の入札も不調となった。

改めて糸魚川市の入札について、以下伺う。

- (1) 令和6年度発注工事の入札で落札率が100%となったのは何件か。また、最も低い落札率はいくらか伺う。

- (2) 不調となった工事の入札について

旧東北電力ビル解体工事以外で不調となった入札の状況と再入札の状況及び不落について伺う。

- (3) 性能発注について

- ① 6年度に性能発注方式で入札した工事は何か。また、過去に性能発注方式で解体工事の入札を行ったか伺う。
- ② 今回、なぜ性能発注方式に切り替えたのか、考えを伺う。

2 農政について

【答弁者：市長】

以前から「猫の目農政」と言われてきたが、「令和の米騒動」を受け、政府はコメ増産にかじを切ることになった。また、各JAは集荷率を上げようと概算金（仮払金）の大幅引上げをする報道がされており、7年産の新米の出来が注目されている。

質 問 事 項

しかし、猛暑の影響を受け、稲刈りも早まり、生産者は収穫に忙しい日々を迎えているが、あまり喜びの声が聞かれない。

高齢化著しい市内農家は、農機具や肥料、燃料の高騰に加え、今夏の高温・渇水に深刻な影響を受けている所もあると聞くが、市はどのように現状を把握し、対応しているか伺う。

(1) 高温・渇水（干ばつも含め）の稲及び田畑への影響と対応について

(2) 米価の高騰と概算金（仮払金）の増額について

① 農家の受止めをどう把握しているか。

② 今年の作付けで非主食用米から主食用米への変更について把握しているか。

(3) 政府のコメ増産について、対応を伺う。

3 地区の多目的集会所の固定資産税について

【答弁者：市長】

能生地域で、本来、課税免除となる公的施設の土地に固定資産税が課税され、長年にわたり徴収されていたことが判明した。

なぜこのような事案が発生したのか。

同様な事案は何か所で行われていたのか。

発生した原因と、どのような対応が取られたのか伺う。

③ 和 泉 克 彦

1 令和8年度～令和11年度県立高校等再編整備計画について

【答弁者：市長、教育長】

新潟県教育委員会は、本年6月に、「令和8年度～令和11年度県立高校等再編整備計画」を公表しています。それによると、当市3校のうち、糸魚川白嶺高校のみが令和9年度より、現行の3学級募集から2学級募集となる予定です。県教育委員会は、募集学級数の見込みは、現時点でのデータに基づく見通しを示したもので、今後、最新の学校基本調査の結果等も踏まえて、本年10月の教育委員会の議決により、決定されますとあります。

この再編計画については、新潟県及び県教育委員会の所管ではありますが、当市はこれまでも0歳から18歳までの子ども一貫教育として、高校の存続のために高校魅力

質 問 事 項

づくりを推進し、高校魅力化コーディネーターを配置し、授業サポート、進路相談、自習スペースの運営などを実施してきていることや、海洋高校の産官学連携の事例などを踏まえ、以下、伺います。

- (1) 市内に3校の高校がある本市として、県立高校等再編整備計画をどのように捉えているのか、伺います。
- (2) 高校3校のそれぞれの特色をどのように捉えているのか、伺います。
- (3) この再編整備計画によると、令和11年度まで、糸魚川高校は3学級、海洋高校は2学級募集を維持する見込みですが、糸魚川白嶺高校は令和9年度に、現在の3学級から2学級へと1学級減の見込みとなります。この学級減をどのように捉えているのか、伺います。
- (4) この再編整備計画のエリア⑤の糸魚川市、妙高市、上越市における検討事項には、「地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について」、「『産業高校』の設置について」、「総合学科のあり方について」検討すると示されています。そこで、この糸魚川白嶺高校の学級減の見込みを、視点を変えて捉え、本市における看護師不足を補うための一助として、看護科を設置することを県教育委員会に提言できないものか、伺います。

2 デジタル教育の進展による学力・思考力への影響と、既存の教育政策の再評価について

【答弁者：市長、教育長】

国のGIGAスクール構想により、小中学校を中心に1人1台端末の整備が進み、授業におけるデジタル機器の活用が急速に広がっています。加えて、文部科学省では「学習者用デジタル教科書」を紙の教科書と同等の正規教材として位置づける方向で制度の見直しが進められ、全国の学校現場で段階的な導入が進められています。

一方で、先行してデジタル化を進めたスウェーデンやフィンランドといった教育先進国では、児童生徒の学力や集中力、精神面への悪影響が顕在化したことから、紙の教科書への回帰を決断するなど、方向転換が進んでいます。

また、日本でも、デジタル教材に過度に依存することによって、児童生徒の読解力や思考力が十分に育まらない懸念が指摘されています。特に、画面操作やリンク動画による“効率的”な学習が、実は「試行錯誤」や「自力での発見」といった教育の本質を失わせているとの声もあります。

このようなデジタル教育の現状を踏まえ、本市としても、国の制度に単に追随するだけでなく、地域の子どもたちにとって本当に望ましい教育環境のあり方を主体的に検討すべき時機に来ていると考えます。

以上を踏まえ、以下、伺います。

質 問 事 項

(1) デジタル教育の導入状況と実態評価について

- ① 当市は、端末機器の更新を今年度予算に計上していますが、それも含め、当市におけるGIGAスクール構想に基づく端末整備の状況と、授業等における運用実態について伺います。
- ② 当市におけるデジタル教科書の導入状況及び導入されている場合の紙教材との使い分け方針はどうなっているのでしょうか。特に、授業内での使用頻度や教員の裁量についての現状を伺います。
- ③ デジタル教育における教員や保護者、児童生徒からのフィードバック体制は構築されているのでしょうか。特に、デジタル機器活用に関するマイナスの側面についても意識的に意見を集め、対応を検討しているのか、伺います。
- ④ これまでに寄せられたマイナス面に関する具体的なフィードバックにはどのようなものがあり、それを踏まえてどのような改善策を講じてきたのでしょうか。実施内容をお示しください。

(2) 教育への影響と懸念への対応について

- ① デジタル学習の常態化が、児童生徒の集中力、読解力、思考力、筆記能力などに与えている影響について、どのように認識しているのでしょうか。全国学力調査等の定量的データとあわせて、具体的にお示しください。
- ② 視力、姿勢、精神的ストレスといった健康面への影響については、どのように把握しているのでしょうか。
- ③ デジタル学習の教育効果に関する定量的な評価体制や、紙教材との比較を行う枠組みは整備されていますでしょうか。仮に現時点で明確な体制が構築されていない場合、早急に検討すべきと考えますが、その必要性をどのようにお考えでしょうか。

(3) 教育方針の再評価と教材選択のあり方について

- ① 国の制度整備やICT推進の流れを踏まえつつも、当市として、紙教材の教育的意義を改めて評価し、活用を見直すお考えはありますでしょうか。
- ② デジタルとアナログ、それぞれの特性や教育効果を踏まえた最適な組合せを、学校現場の裁量で柔軟に選択できるような環境整備をどのように進めていくのか、方針を伺います。
- ③ 今後の教材整備や教育投資に当たっては、制度に機械的に従うのではなく、「子どもにとって何が最良か」を基準とした判断が求められると考えますが、どのようにお考えか、伺います。
- ④ デジタル教材と既存の教育手法の強み・弱みを、先行自治体や教育先進国における導入効果も視野に入れつつ比較検証し、現場における教育効果と統合的に捉えながら、教育内容を継続的に洗練させていく仕組みが必要ではないかと考えますが、そのような再評価と改善のサイクルをどのように構築していくのか、お考えを伺います。

④ 利根川 正

1 猛暑、渇水による稲作への影響と農業政策について

【答弁者：市長】

6月からの高温と雨不足により、稲作への影響が出ており、令和5年度と同じ1等米比率の低下と収穫量の減少が心配されます。農家も対策を実施しましたが、自然災害とも言える気象条件にはかなわず、特に中山間地域の小規模農家では、水不足によるひび割れにより稲が枯れている状態です。今後の対応を伺います。

また、国において農業政策の方針転換を打ち出しており、米の生産を取り巻く環境が大きく変わろうとしています、これらを踏まえて伺います。

- (1) この夏の高温と渇水による農作物への被害状況を伺います。
- (2) 今後、雨により、佐渡市のように水田のひび割れからの田畑の崩れが心配されますが、どのような対策を実施するか伺います。
- (3) 近年高温による稲作への影響が多くなり、新たな品種への切替え等の動きについて伺います。
- (4) 農業政策について、8月5日政府は、今後、増産にかじを切る方針を打ち出しましたが、糸魚川市はどのような方向でいくのか伺います。
- (5) 食料安全保障、販売価格の引下げ、農家の所得補償、後継者問題等、安定した形で進んでもらいたい、糸魚川市の考えを伺います。

2 (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備予定地の既存ビル解体について

【答弁者：市長】

- (1) 旧東北電力ビル、旧宮田ビルの2棟の解体工事の入札が6度目も不調に終わったことについて、市はどのように捉えているか伺います。
- (2) 6月定例会でも解体費に関して積算根拠が極めて不透明であること、事前に解体設計を行い、複数の業者から見積りを取り、競争性を生み、妥当性を確保することが大切と訴えましたが、実施されたのか伺います。
- (3) 解体工事入札不調により、タイムスケジュール的に間に合うのか、今後の日程はどう考えているか伺います。
- (4) 解体後の利活用案を市民から広く意見をいただくために、公式LINEなどを活用して意見を聴くなど、検討してはどうか伺います。
- (5) 6月11日付で協定を締結した4事業者に対して、丁寧な謝罪が行われたか、協定解除の申入れを受け入れられたか、また、違約金の財政負担について伺います。

質 問 事 項

3 防災力について

【答弁者：市長】

- (1) 防災訓練を重ね、日頃から防災力のレベルを上げていくことが大切と考えますが、糸魚川市はどのように進めていくか伺います。
- (2) 糸魚川市において、避難所のトイレ数と被災者 1 人当たりの居住面積が政府の示す基準を満たしておらず、早急に対応が必要と思いますが、考えを伺います。
- (3) 岩手の山林火災から半年がたち、平成以降で最大規模となりました。今後、山林火災も災害リスクと捉え進めるべきだと思います。市の考えを伺います。

⑤ 保 坂 悟

1 バックキャスティングによる事業について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 市長公約の、人口 3 万人規模で医療と教育と経済を「協働と共存」により地域活性化させる縮充政策の完成形となるバックキャスティングとは、どういうものを描いているのか。
- (2) 「ベーシックインカム制度」の地方版の研究について
18歳以上の全ての国民に定期的に現金を支給する仕組みで、個々の所得や資産にかかわらず、無条件で最低限の生活ができる一定額を支給するものである。課題は大きな財源が必要なことと労働意欲の減退である。生活保護と比較して研究する考えはあるか。
- (3) 子どもベーシックサービスの導入について
妊娠・出産から子育て、教育までの基本的なサービスを所得制限なく、無償で提供するものである。東京都議会公明党が提唱しているが、その地方版を研究する考えはあるか。
- (4) 新しい農林水産業の推進について
 - ① 所得補償のある農林水産業の研究を行う考えはあるか。
 - ② 建設業と農林水産業のタイアップ事業の現状と今後の取組はあるか。
 - ③ 農林水産業と大学や高等専門学校との連携事業の取組はあるか。
 - ④ 農林水産業のロボット等によるスマート化の取組の考えはあるか。

質 問 事 項

2 (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備について

【答弁者：市長、教育長】

(1) (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備基本計画の建設中止について

- ① 建設中止に至る公式な理由をまとめたものはあるか。
- ② 基本計画にかかわった人たちへの説明責任は果たしているのか。
- ③ DBO方式で決定した契約会社との話し合いはどうなっているか。

(2) 市長案の汎用性のある広場の整備について

- ① 連合区長会と能生・青海の活性化協議会等の声としての広場整備なのか。
- ② 広場であれば地域住民との軋轢あつれきが生じるおそれはないのか。
- ③ 市長公約で駅北に屋内遊戯場はふさわしくないが、屋外広場がふさわしいと思う根拠は何か。駅北にそれが必要となる仕組みとはどういうことか。
- ④ 屋外広場整備に対するパブリックコメントは行うのか。
- ⑤ ビル解体工事費は、子育て支援複合施設整備の財源で行えるのか。

(3) 屋内遊戯施設の整備の進め方について

- ① 施設の目的について、どのように決めるのか。
- ② 施設の面積、機能、特徴などについて、どのように決めるのか。
- ③ 施設の予算規模や財源について、どのように決めるのか。
- ④ 立地予定地の住民との軋轢あつれき対策はどのように行うのか。

3 首都圏との二拠点化の推進について

【答弁者：市長、教育長】

二拠点化を推進する背景として、糸魚川市には北陸新幹線の駅があり、北陸自動車道のインターチェンジが3か所ある。そして海と山と川があり、地域でとれる食材は豊富で、とてもおいしい。冬には降雪があり、雪の降らない地域から見れば魅力的に映る。このような自然豊かな地域で子育てをしたくなる仕組みを整えて、仕事と生活を糸魚川で過ごしたくなるように、市を挙げて推進することが糸魚川市にとって重要と考えている。

また、太平洋側と日本海側でビジネスと生活の拠点を置くことで、災害時の安全対策と事業継続を容易にする考え方の推進を行うものである。

以下、今後の取組について伺う。

- (1) 市内サテライトオフィスの利用状況と今後の展望について
- (2) 立地適正化計画の進捗状況と今後の展望について
- (3) 保育園や幼稚園、小中学校や市内高校のあり方について
- (4) 医療や福祉事業の働き手不足による廃業等への防止策について

質 問 事 項

- (5) AIやロボット、ドローン等による新しいビジネスの拠点化について
- (6) 移住定住の新しい角度の促進策について

4 観光振興と産業振興と安心安全の環境づくりについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) 観光戦略について

- ① 白馬村に来る外国人観光客を糸魚川へ誘導する手法として、大糸線の観光列車化について、検討する考えはあるか。
- ② 糸魚川駅周辺のまちなか全体を遊戯施設化する考えはあるか。

(2) 個人宅への防犯カメラの設置補助の創設について

全国的に強盗などの凶悪な事件のニュースを耳にする。強盗や空き巣が入りにくい環境を作るために積極的に検討する考えはあるか。

(3) 鳥獣等に対する市民への安全対策について

- ① 猟友会や狩猟免許取得への支援拡充について考えはあるか。
- ② 人と作物の鳥獣被害防止策の強化について考えはあるか。
- ③ 野生動物の研究者である故野柴木洋先生の顕彰は考えているか。

(4) 稲作農地の委託契約の問題点について

きれいな水田の中に耕作されていない所が見受けられる。委託者と耕作者との契約が守られていないケースや、耕作者の健康上の問題などが考えられるが、水稻の病気や害虫の発生があると他の田んぼへの影響もある。どのように解決しているのか。

5 選挙制度について

【答弁者：市長】

(1) 投票所の設置箇所数について

糸魚川市では57か所の投票所があり、能生地域19か所、糸魚川地域25か所、青海地域13か所となっている。投票所の設置について、例えば、大野地区では大野地区公民館1か所、お隣の根知地区では4か所あるが、今後の人口減少や期日前投票の推移によっては、出張投票所、デジタル投票の推進などの検討は考えているか。

(2) 投票所における投票時間の設定について

地域のニーズに併せた対応ができるか。

質 問 事 項

(3) 選挙用ポスター掲示板について

市議会議員選挙のように人数が多い場合、張り出しが難しいところがある。前回、山之坊の掲示板で足場が極端に良くない場所があることを指摘したが、今回改善されていなかったと伺っている。加えて、強風による掲示板の破損なども考えて、設置場所について、再検討を行う考えはあるか。

⑥ 東 野 恭 行

1 地域医療の現状と課題について

【答弁者：市長】

令和7年8月、糸魚川市市民部健康増進課により「地域医療の現状と課題」のタイトルで開催された市民説明会の資料では、人口減少が進むとともに、医療スタッフの確保が困難になっていくことが想定される本市の状況を考えれば、地域に密着した社会基盤としての医療を確実に維持するために「地域医療構想」を早期に取りまとめ、実行することが必須であるとしています。

今後の糸魚川市の医療についての方向性と取組について伺います。

- (1) 今後、新潟県が掲げる「地域医療構想」が構築され、実行に向けた取組がされていくと考えますが、構想開始時期の見通しについて伺います。
- (2) 将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、医療機関の役割分担や連携の仕組みを構築した地域医療構想がまとまり、実行していくことで、公的病院（糸魚川総合病院）の経営は改善され、赤字が解消されていくものとお考えか伺います。
- (3) 新潟県及び厚生連病院所在市による財政支援がなされ、厚生連は当初想定された2025年度の運転資金枯渇を回避できる目処が立ったとしているが、2025年以降も新潟県による支援は見込めるのか伺います。
- (4) 公的団体の運営による「公的病院」と、都道府県・市町村などの自治体が運営する「公立病院」の違いについて伺います。
- (5) 地域医療の存続に向けて、久保田市長自らが順天堂大学へ何度も訪問されているようですが、それら「自ら汗をかく」活動が、今後、糸魚川市の医療にとって、どのような影響を期待できるのか伺います。

質 問 事 項

2 糸魚川市における観光振興に向けた取組について

【答弁者：市長】

糸魚川市には、ジオサイトを始めとする多くの観光資源があり、令和5年度の観光入込客総数は190万9,550人と多くの方が糸魚川市に訪れています。「稼げる観光」を意識するならば、施設の更新などに積極的に投資することが望ましいですが、糸魚川市の観光振興に向けたビジョンを伺います。

- (1) 令和7年7月15日、妙高高原地域の大規模リゾート開発について、情報を共有する協議会が初めて開催されました。その協議会は、外資系の不動産投資運用会社ペイシャンスキャピタルグループ「PCG」のほか、上越地域の3市や佐渡市、鉄道やバスの交通事業者など11の団体で構成されていますが、今後の糸魚川市の連携について、考えを伺います。
- (2) マリンドリーム能生や親不知ピアパークのリニューアル時期の予定を伺います。松本糸魚川連絡道路設置と併せて、旧糸魚川市での「道の駅設置」に向けた構想はあるか伺います。
- (3) 糸魚川市観光協会オフィシャルショップ（オンラインショップ）にて販売されているグッズの売行きはいかがですか。入館者の多いフォッサマグナミュージアムや観光協会の窓口での販売はされているのか伺います。
- (4) 糸魚川市が考える新幹線駅（糸魚川駅）周辺のまちづくりについて伺います。

⑦ 松 田 徳 彦

1 高齢者福祉の充実について

【答弁者：市長】

- (1) 市のアンケート調査では、要介護状態になったときの住まいの希望は、半数以上が自宅になっています。それを支えるのが訪問介護ですが、政府による訪問介護報酬の引下げで全国的に事業所の経営が悪化し、廃業、倒産が続出しています。政府に対して訪問介護報酬引下げの撤回を求めるとともに、村上市のように訪問介護事業所に引下げによる減収分を独自に補助する考えはないか伺います。
- (2) 市の介護人材確保の取組にもかかわらず、介護人材の不足が続いています。支援は、主に学生や若い世代が対象と思われますが、元気な高齢者が介護事業所に就職するように支援することも求められると思いますが、市の考えを伺います。
- (3) 高齢者のみ世帯のうち、高齢者単身世帯は半数を超えています。「子どもたち

質 問 事 項

に迷惑はかけたくない」と年金で入れる特別養護老人ホームへの入所を希望する声も少なくありません。特養ホームの直近の入所待ち人数を教えてください。

また、要介護高齢者が安心して暮らせる特養ホームの増設が必要ではありませんか、市の考えを伺います。

2 (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画について

【答弁者：市長】

- (1) 施設整備の前提となる旧東北電力ビルと旧宮田ビルの解体工事入札が6回目も不調に終わりました。予算を増やして臨んだにもかかわらず不調に終わったわけですが、今後の対応方針は検討されていますでしょうか、伺います。
- (2) 国や県から交付金を受けるための期限に影響はないのでしょうか、伺います。
- (3) 市長の提案である「汎用性のある広場」について、市民等に説明が始まっていますが、市民からの声をどのように受け止めているか伺います。
- (4) 糸魚川沖には「上越・糸魚川沖断層」があります。想定では5分程度で海岸に最高7メートルの津波が到着します。大町地区には最高1メートルの浸水が想定されています。当該跡地の利用について、周辺の住民がすばやく避難できる「津波避難タワー」の整備について、検討できないか伺います。

3 認知症予防補聴器購入費助成事業について

【答弁者：市長】

- (1) 令和5年の開始からの利用実績は何件になりますか、伺います。
- (2) 利用者に効果検証のためのアンケートを実施していますが、まとまっているものがあれば結果を教えてください。
- (3) 新潟県では全自治体が導入しています。対象年齢が「18歳以上」と「全年齢」の所を合わせると23自治体(77%)になります。なるべく早い段階から補聴器を使ったほうが効果があるとされています。糸魚川市は「50～74歳」ですが、範囲を広げられないのか伺います。
- (4) 県内の助成額は、2万円から10万円まで大きな差があります。補聴器を両耳分購入すると平均40万円ぐらいかかります。5万円以上助成が20自治体(67%)です。糸魚川市では2万円ですが、これは2自治体のみです。高額な補聴器を利用しやすくするために、助成額を増額できないか伺います。

さらに、支払い方法が「一括払い」のみで購入をためらう方もいます。改善できないか伺います。

⑧ 関原奈津美

- 1 糸魚川市の救急医療体制の維持・向上と救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗について

【答弁者：市長】

6月23日の市民厚生常任委員会の糸魚川総合病院との委員会協議会において、糸魚川総合病院が赤字を回避するための人件費や病床の削減、黒字化に向けたシミュレーション対策をお聞きし、大変な努力をされていることを理解しました。

また、8月24日の地域医療の現状と課題の市民説明会においては、地域医療体制への市民の関心の幅広さと高さをお聴きすることができました。

医師・看護師不足、市内開業医の高齢化、糸魚川市の少子高齢化における人口減少、糸魚川市の地理的条件において、今後、糸魚川市内の医療機関、糸魚川市行政単独で救急医療体制を維持していくことが難しくなることは「自明の理」です。

「市民の生命と財産を守る」という、私たちの大命題を果たすべく、糸魚川市の救急医療体制について、市長のお考えを伺います。

- (1) 糸魚川市内の救急医療体制の現状を伺います。
- (2) 糸魚川市内の救急医療体制の課題を伺います。
- (3) 新潟県が進める地域医療構想に対する市長のお考えを伺います。
- (4) 糸魚川市の地理的条件から、救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗と今後について伺います。

⑨ 渡辺 栄一

- 1 今夏の異常な高温現象に伴う対策について

【答弁者：市長】

今夏の渇水で、市内の第一次産業にどのような被害が出ているか。また、その対策を併せて伺う。

- (1) 全国的に渇水が問題となったが、稲作に関する市内の状況はどうか。
- (2) 市は、渇水に対するかんがい用資機材の購入、借上げの補助策を行っているが、その利用度はどの程度か。
- (3) 養鶏や牧畜などの事業者の被害状況はどのようなものであるか。
- (4) 国や県と連携して、必要な被害救済策を行うことが求められるが、市はどの

質 問 事 項

ような施策を考えているか。

(5) 今後、中山間地における、ため池等の整備が必要と思われるが、いかがか。

2 (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画について

【答弁者：市長】

(仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画について、当市が大町地区に所有する既存施設「旧東北電力ビル」と「旧宮田ビル」2棟の解体工事の入札が、通算6度不調になったことの今後について伺う。

(1) 「旧宮田ビル」まで解体の範囲を広げた入札を試みたが、不調に終わった。この原因は金額が合わなかったのか。あるいは応札事業者が出なかったことによるものなのか。

(2) 予定価格の積算根拠は、適正と考えられるか。

(3) 今後、入札事業者の範囲を広げる考えはあるか。

(4) 今年の12月を目途にしている国への利活用案の変更は間に合うのか。

(5) 補助金をあてにせず、一般財源で解体を行えば、資材高騰がひと段落するまで、静観することもできるが、そのような考えはないか。

(6) 整備事業者(4者)との協議・清算等は、どのようになっているか。

3 当市の諸課題について

【答弁者：市長】

(1) 登山道の整備等はどのように行われているのか伺う。

(2) 市内におけるアンダーパスの箇所、冠水対策などはどのようになされているのか伺う。

⑩ 加藤 康太郎

1 時代の要請に対応した持続可能な次期「糸魚川市定員管理計画」について

【答弁者：市長】

当市は、合併直後の平成17年度の「地方公共団体定員管理調査」において、普通会

質 問 事 項

計職員ベースで、職員数が84人超過という状況にあり、「糸魚川市定員適正化計画」を策定し、合併10年後の平成27年度当初の職員数を577人と定め、職員の削減を進めた結果、平成23年度当初の職員数は、573人となり、4年前倒しで目標を達成し、平成24年3月に新たな定員適正化計画を策定し、定員の『抑制』を主要課題として推進してきました。

現在は、必要に応じた適正な職員数を確保した上で、効率的で質の高い行政サービスを実現し、これまで培われてきた技術・ノウハウを『継承』し、更には多様な人材を『活用』することなどにより、時代の要請に対応した職員体制を実現することを目的に、名称も「定員適正化」から「定員管理」とし、計画期間を、令和3年度から令和7年度（令和3年4月1日を基準日として、令和8年4月1日まで）の5か年とする「糸魚川市定員管理計画」を策定し、計画の最終年度となっています。

- (1) 10年先のまちづくりを見据え、次期「糸魚川市定員管理計画」（5か年）では、機能・価値創出へ軸足を移し、業務量・行政サービス（品質）・人材確保（育成）の3点を戦略的に同時最適化する必要があり、特に、この5年間は、退職ピークと地方公務員の段階的な定年引上げの余波が続く「転換期」であり、持続可能な行政運営のための最も重要な「再構築期間」とも言えます。次期「糸魚川市定員管理計画」の策定に着手すべきと考えます。所見を伺います。
- (2) 令和8年度以降も、退職者数が高水準で推移することが予測されます。さらに、人材獲得競争が激化する中で、若手職員や専門職（技術職）の人材確保（採用）をどのように強化、展開していくのか伺います。
- (3) 退職者の急増に伴う継承リスクへの対応として、これまで培われてきた技術・ノウハウを、どのように『継承』していくのか伺います。
- (4) 今後は、人数管理ではなく、業務量や繁忙期に応じた柔軟な配置（転換）が求められます。必要定員の算定方法や期間の配置方針について、市長の考えを伺います。
- (5) 多様な人材を『活用』するには、庁内にとどまらず、「越境学習」（自分にとっての“ホーム”と“アウェイ”を行き来することによる学び）が有効と考えます。今後、どのように、人材活用（育成）を図るのか伺います。
- (6) 限られた人的資源の中で、持続可能な地域社会を形成するためには、『地域DX』（行政サービスの効率化を図る「自治体DX」と、デジタルの力を活用し、地域課題の解決を図る「地域社会DX」）が必須と考えます。社会的動向、技術的動向等も踏まえ、「糸魚川市DX推進計画」（DX事業）の見直し・更新を図っていくのか伺います。

⑪ 阿 部 裕 和

1 子育てしやすい糸魚川の実現に向けた環境整備について

【答弁者：市長】

- (1) (仮称) 駅北子育て支援複合施設は、子育て支援センターや屋内遊戯場を含む多機能拠点として計画され、それに併せて駅前のにぎわい創出も目的としていました。この計画を中止し、広場整備に計画変更した理由について伺います。
- また、どのような評価や議論がなされてきたのか伺います。
- (2) 広場整備予定地の敷地面積は約1,830㎡と限られており、この規模の広場整備で子育て支援とにぎわい創出をどう実現していくお考えか伺います。
- (3) 単なる小規模な広場整備にとどまらず、糸魚川駅前という立地特性を踏まえ、より効果的な施設・空間とするべきと考えます。広場整備案の妥当性について、市の見解を伺います。
- (4) 子育てしやすい糸魚川の実現を考えれば、糸魚川駅前に新たに広場を整備するよりも、須沢臨海公園のような市民のみならず、多くの方から利用されている、市を代表する公園を充実させるほうが、利便性や満足度の向上、投資効果の面でも有効ではないかと考えます。両者の投資効果を比較検証されたか伺います。
- (5) 民間施設を含む既存施設を活用した屋内遊戯施設の整備について言及されていますが、具体的なものは示されていません。整備内容や運用開始時期の見込み、財源及び予算規模、運営形態（直営・委託）について伺います。
- (6) (仮称) 駅北子育て支援複合施設の当初計画には、子育て支援センターを含む屋内遊戯施設設置のほかに、一時預かり保育、図書・学習スペースが整備される予定でしたが、これらの機能については方向性が示されていません。今後どのように整備していくお考えか伺います。
- (7) 先般「(仮称) 駅北子育て支援複合施設見直し支援業務委託」が入札公告されましたが、議会説明と実際の業務が整合していないように見受けられます。その背景と理由について伺います。

2 誰もが投票しやすい環境づくりと期日前投票所の拡充について

【答弁者：市長】

- (1) 投票率の向上のため、どのような取組を行っているか。
- また、今後新たな環境整備や啓発活動を展開していくお考えか、伺います。
- (2) 期日前投票所は、市役所本庁及び両事務所の3か所に限られていますが、その理由は何か、伺います。

質 問 事 項

- (3) 多くの市民が日常的に利用する商業施設等を活用した期日前投票所の設置について、お考えを伺います。
- (4) 高齢化や中山間地を始めとした交通不便地域に対応するため、「移動式期日前投票所」導入の可能性について伺います。
- (5) 他市の事例調査や施設管理者との協議を進め、今後、期日前投票所の拡充を検討していくお考えはあるか伺います。

⑫ 宮 島 宏

1 豪雨時の水害対策と豪雪時の屋根雪下ろし対策について

【答弁者：市長】

地球温暖化は、大気中の水蒸気量の増加や海水温上昇により、豪雨・短時間強雨の増加、酷暑、渇水、台風の強大化、高潮など、気象災害をより激甚・頻発化させる主因とされています。

また、地球温暖化は、日本海寒帯気団収束帯（J P C Z）による局地的な大雪の頻度や強度に影響する可能性も指摘されています。

以上の傾向は今後も継続するとされ、生命・財産・生活基盤への脅威が高まるため、気候変動とその影響を理解し、適切な対応策と防災対策の実施が急務です。

局地的豪雨と局地的豪雪への対策について伺います。

- (1) 防災ハンドブックには河川の氾濫による浸水域と浸水深が図示され、それらは津波によるせり上がり浸水深や浸水域の予想を上回るものとなっています。豪雨による水害対策の現状、一般市民への周知状況及び今後の方針について伺います。
- (2) 労働安全衛生法施行令が一部改正され、業者が行う屋根の除雪作業では、転落防止用安全帯を取り付けるアンカーが必須です。つまり、アンカーがないと屋根の除雪作業ができません。しかしながら、屋根雪下ろしが自力でできない市民の住宅には、アンカーが設置されていない場合があります。業者は委託されてもアンカーがなければ除雪作業が合法的にできないことになりますが、市の対応について伺います。
- (3) 公的施設の屋根雪下ろしでも同様のことが言えます。小滝地区小体育館など多雪地域に位置し、屋根雪下ろしが必要となる公的施設のアンカー整備状況と今後の方針について伺います。

質 問 事 項

2 デジタルトランスフォーメーション（D X）の業務や教育への活用について

【答弁者：市長、教育長】

2023年5月に糸魚川市D X推進計画が作成され、本年度は5か年の推進計画の中間の3年目となります。当市の一般行政と教育行政での生成A I（人工知能）とR P A（ロボットによる業務自動化、ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入状況とその効果及び運用して顕在化した課題について伺います。

- （1）一般行政と教育行政への生成A I とR P Aの導入経費と運用経費について伺います。
- （2）一般行政での生成A I とR P Aの導入による効果と課題について伺います。
- （3）児童生徒と教員による生成A I やR P Aの利用状況と教育的効果、課題について伺います。
- （4）生成A I とR P Aの導入によって削減できた職員の勤務時間について伺います。
- （5）生成A I とR P Aによる業務効率化以外に、導入によって新たに発生した価値や、職員や児童生徒の意識改革について伺います。

3 公務員の盗撮事件の頻発について

【答弁者：市長、教育長】

公務員、特に教員による犯罪が全国的に相次いでいます。中でも本年6月に発覚した複数の教員による盗撮画像共有事件は極めてショッキングなものでした。8月下旬には盗撮で逮捕された栃木県の県立高校の教師の前任校から、盗撮用カメラが複数発見され、常習性も指摘されています。新潟県でも本年になってから、電車内で盗撮しようとした高校教員が懲戒免職になり、教育委員会の課長兼館長（学芸員）の市職員が、盗撮で逮捕されています。

新潟県教育委員会は、教職員による犯罪抑止をテーマとした臨時校長研修会を8月4日に開催しており、他県でも盗撮事件の続発を受けて様々な対応がされています。これらの事件後の対応について伺います。

- （1）このような事件を受けて、糸魚川市と糸魚川市教育委員会の対応について伺います。

質 問 事 項

4 ジオパークのまちについて

【答弁者：市長】

前市長は、本年4月23日の退任の挨拶の中で「ジオパークを生かして、合併後の一体感の醸成に取り組んできた。」と述べ、報道機関は、20年間の前市長の主要業績として、“ジオパークによるまちづくり”と“駅北大火からの復興事業の推進”を挙げています。

“ジオパークのまち”は、2008年以降当市のキャッチフレーズに頻繁に用いられてきました。以下、ジオパークを中心に市長の見解を伺います。

- (1) 前市長が推進してきたジオパーク事業についての評価と今後の方針について伺います。
- (2) ジオパーク関係者で問題となっている4年に1度の再審査やその方法についての見解について伺います。
- (3) “ヒスイとフォッサマグナのまち” “ジオパークのまち” “相撲のまち” “石のまち”などの糸魚川市の特徴を端的に表現するキャッチフレーズがこれまでに発案され、今でも使われているものがあります。市長は“縮充のまち”など当市の新たなキャッチフレーズの考えはありますか。
- (4) 私は縮充には、「人口が減っても心豊かな充実した暮らしを紡ぐ」という意味のほかに、「あるものは充実させ、あるものは縮小する」という意味もあるのではないかと感じています。市長の見解を伺います。

⑬ 田 原 洋 子

1 災害関連死ゼロを目指す避難所運営について

【答弁者：市長】

災害関連死とは、地震、津波、洪水などの自然災害において、建物の倒壊や火災などの直接的被害ではなく、避難途中や避難生活等においての精神的、肉体的負担が原因で亡くなることです。

過去の災害では、狭い避難所暮らしや車中泊で同じ姿勢を長時間続けることで、足の血管に血の塊（血栓）ができ、血栓が肺の血管に移動し、呼吸困難や激しい胸の痛みを起こすエコノミークラス症候群の危険性と予防の重要性が取り沙汰されています。

2024年1月1日に発生した能登半島地震の避難行動の反省を生かし、避難所運営、

質 問 事 項

避難所生活について、市民一人ひとりが理解を深めることが必要だと思われます。

自主防災組織、消防団だけではなく、近年では防災意識、知識、技能を生かして、啓発活動に当たり、大災害に備えて、自助、共助、協働を原則として、防災力を高める活動を行う防災士の育成が進んでいます。

また、糸魚川市では2025年3月16日に糸魚川市民会館において、各地区の自治会や自主防災組織の役員を対象に、火災対応の防災リーダーの研修が行われました。

さらに、地域で活動する際に必要な知識や技術等を身に付けることで、災害時にリーダーシップを発揮できる防災リーダーは、避難所運営に必要な人材となることが期待されています。

しかし、防災士や防災リーダーが自分の地域にいるのか、誰が防災士、防災リーダーなのか不明のため、多方面と連携ができていないのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 防災士と防災リーダーは、糸魚川市内に何人いて、指定緊急避難場所、指定避難所の各所に配置できる人数は足りていますか。
- (2) 避難所対応の防災リーダー研修会を行う計画はありますか。
- (3) 糸魚川市内の防災士、防災リーダー同士が連携するための交流会を開催する考えはありませんか。
- (4) 防災士、防災リーダーをどう活用していきますか。
- (5) ジュニア防災リーダーとして、小学生、中学生、高校生向けに糸魚川市独自の研修制度を設けるつもりはありませんか。
- (6) 8月30日に実施された糸魚川市総合防災訓練で見えてきた課題は何ですか。
- (7) ボトルに防災グッズを詰めて普段から持ち歩いたり、学校、職場に置く方法があることを周知する計画はありますか。

2 糸魚川市の観光満足度向上について

【答弁者：市長】

令和7年は8月9日からの三連休と、お盆休みと週末が続いたことで、糸魚川市には多くの観光客が訪れました。

百名山の雨飾山、白馬岳、海拔0メートルから始まる拇海新道を朝日岳まで縦走するなど登山客も多く、ヒスイを探しに、えちご押上ひすい海岸を目指す方もいます。

また、マリンドリーム能生は、ベニズワイガニだけではなく、海洋高校出身ののり関が横綱に昇進したこともあり、海洋高校のアンテナショップがあることから、注目度が更に上がっています。

しかし、マリンドリーム能生に行くバス路線である仙納線と能生・労災病院線は、どちらも日曜・祝日、8月15日、16日、12月29日から1月3日の間は運休で、仙

質 問 事 項

納線の一部の時間は土曜日にも運休のため、週末、お盆、年末年始に糸魚川駅まで鉄道で来られた観光客は、レンタカーを借りるか、能生駅か能生案内所から歩く以外に移動手段がなく、マリンドリーム能生に行くのが難しいのではないのでしょうか。

また、北陸新幹線に接続する大糸線の運行のない時間帯のＪＲ大糸線増便バスは、糸魚川駅を 11 時 55 分に出発する 2 便は、金沢方向から到着する北陸新幹線と乗換え時間が 8 分しかなく、南口からバスが発車することに気づかず、新幹線を降り、改札を出て、大糸線の改札口に行っても券売機では行き先の白馬駅が見当たらず、窓口でも南小谷駅までしか購入できないため、戸惑っている間にバスに乗り遅れる事例が発生しています。

自由通路にはタッチパネル式の観光案内（ＡＩ さくら）がありますが、必要な情報にたどりつけず、困っている観光客を見かけます。

観光案内所では、対面で人が対応することで観光客の年齢や交通手段を加味して提案できるのが最大の利点ですが、ヒスイ王国館の案内所には「10 月 1 日より日本海口観光案内所で行っていたバス業務はアルプス口観光案内所へ移転いたします。なお、日本海口観光案内所は糸魚川観光協会事務所となります。ご理解・ご協力をよろしくお願いします」の張り紙があります。

北陸新幹線敦賀延伸、大阪・関西万博をきっかけに、関西方向からの観光客の誘致、インバウンド客に力を入れている糸魚川市の玄関口である糸魚川駅の対応が観光客の満足度に大きく影響するのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- （１）ヒスイ王国館 2 階にある観光案内所は閉鎖するのですか。誰が、いつ、どのように決定したのですか。
- （２）アバター接客ＡＩ さくらの維持費はいくらですか。
- （３）糸魚川駅からマリンドリーム能生へ行く移動手段をどう解決しますか。
- （４）土日限定販売の駅弁「キハめし」の需要はどうですか。
- （５）糸魚川駅自由通路に観光案内所だったボックスが放置されていますが、繁忙期に活用する考えはありませんか。
- （６）観光協会のホームページに駅周辺の飲食店マップを作成する考えはありませんか。
- （７）観光案内所に多い問合せをＡＩ さくら、ホームページに反映をさせていますか。
- （８）アプリで自転車の貸出し、返却ができる自転車シェアリングを導入する考えはありませんか。
- （９）糸魚川駅自由通路のデジタルサイネージに観光スポットの位置関係が分かる地図を表示させる考えはありませんか。
- （１０）ヒスイレディはどのような名称になり、何が変更されますか。

⑭ 田 原 実

1 久保田市長の施政方針と行政改革及び市民理解について

【答弁者：市長】

(1) 人口減少社会のまちづくり、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」に期待する市民のために、その理解と展開を、概念にとどまらず具体策としてどのように打ち出し、進めていきますか、伺います。

(2) 「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」で市役所職員の意識と行動はどう変わっていくべきか、若しくはどう変わってほしいと市長は考えますか伺います。

また、関連する団体、組織への対応は、「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」でどう変わっていくと市長はお考えですか伺います。

(3) 「縮充のまちづくり」と「参加のまちづくり」を議会とはどのように進めていきますか、伺います。

(4) 理事者の役割分担、組織改革、目標値の設定などについては、どうお考えですか伺います。

2 糸魚川の地域医療の現状と課題、市民の理解と行政対応について

【答弁者：市長】

(1) 看護師確保策について伺います。

(2) 病院運営の財源確保について伺います。

(3) 不足する医療への市民の声、説明会等で聞かれた声及び行政の対応について伺います。

(4) 通院における病院利用者、高齢者への公共交通配慮について伺います。

3 北陸新幹線開業がもたらしたものは何か？

糸魚川駅及びえちご押上ひすい海岸駅周辺の整備と活用並びに駅北大火後のまちなかの再生とにぎわいづくりについて

【答弁者：市長】

(1) 糸魚川市立地適正化計画と「縮充のまちづくり」「参加のまちづくり」は合致していますか、伺います。

(2) まちなかの再生とにぎわいづくりについて、担当する部署はどこ（誰）ですか、

質 問 事 項

伺います。

- (3) 北陸新幹線開業がもたらしたものは何か。10年間の新幹線効果の検証と、市民、特に若者に期待されるこれからのまちづくりについて伺います。
- (4) えちご押上ひすい海岸駅周辺整備における地元地区要望への対応、石のまちやジオパークの推進における押上ひすい海岸来訪者への対応、通勤通学への対応、バス交通との連携、地元住民や高校生のまちづくりへの参加について伺います。
- (5) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設の計画見直しにおける用地の活用策とビル解体工事について、限られた時間の中での取組について伺います。
- (6) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設用地は、市長がいうとおり汎用的な活用としていただきたく、以下提案しますので、市長のお考えを伺います。
 - ① 私がいう(仮称) 駅北プレイパークのアイデア募集を行っていただきたいと思います。これについては「一般財団法人公園財団WEB 公園・夢プラン大賞募集」をご参照願います。市長のお考えを伺います。
 - ② 旧市役所跡地の海望公園、旧消防署跡地の駐車場などを含む一団の土地活用として、駅北大火後に絵にしてもらった子どもたちのアイデアをもう一度検証したり、市民からのアイデアである新幹線駅からも見えるランドマークとしての展望タワー、日本海に張り出す展望台、海水を引き込んだ水遊び場の設置を考慮していただきたく要望いたします。市長のお考えを伺います。
 - ③ 生活に欠かせないコンビニの誘致など、近隣住民の要望、遠方からの来訪者が期待される特徴ある図書館・資料館、温浴施設の設置など、糸魚川出身者からもいただく意見への対応をお願いします。市長のお考えを伺います。
- (7) 駅から海へ向かう「通り」の活用、通りを使って都市の中に「軸」をつくることについて私から提案します。具体的には、建築や設計業務に携わる市内の若者たちから意見を聞いて実現する、あるいは建築や都市を空間から考える専門家からアイデアを出していただき実現する、密室でなくオープンな、市民誰もが参加できる協議の場を設けていただきたいと考えますがいかがですか、伺います。